

## 戦国宇喜多家の大河ドラマ誘致に向けての署名活動と 人物を紹介するパンフレットの配布を開始します

戦国宇喜多家の大河ドラマ誘致に向けた署名活動を、10月12日より開始します。また、人物を紹介するパンフレットも同時に配布し、宇喜多家の魅力を全国に向けて発信していきます。

### 1 大河ドラマ誘致の署名活動

(1)開始日時 令和6年10月12日(土)10時

(2)署名方法 手書き署名、WEB署名の2種類

(3)手書き署名スポット

10月12日(土)・13日(日)「集え！岡山城」会場内の岡山城ブース

・署名開始特典として、宇喜多家家臣団証とロゴマークのステッカーをプレゼントします

10月14日(月・祝)～ 岡山城天守

・岡山城限定特典として、宇喜多家家臣団証をプレゼントします

10月15日(火)～ 岡山市役所観光振興課、瀬戸内市役所本庁舎ロビー、瀬戸内市民図書館

※瀬戸内市民図書館は1か月程度の設置予定です

※今後、署名スポットの増設を検討しています

(4)WEB署名

戦国宇喜多家特設サイトにて実施

・特典として、デジタル版宇喜多家家臣団証がダウンロードできます

※署名用紙、家臣団証、ステッカーは別添にてご確認ください



戦国宇喜多家特設サイト  
2次元コード

### 2 人物紹介パンフレット

(1)趣旨 宇喜多家の認知度を高め、わかりやすく人物を紹介するためのパンフレットを制作し、市内施設や県内外のイベントで配布し、全国的に魅力を発信していきます

(2)配布開始日時 令和6年10月12日(土)10時

岡山城で開催する「集え！岡山城」内の岡山城ブースにて配布

10月下旬に市内施設へ順次配布していきます

(3)備考 「戦国宇喜多家を顕彰する会」チーフアドバイザーの歴史学者・磯田道史氏からの応援メッセージも記載しています

※パンフレットは別添にてご確認ください

#### 【問い合わせ先】

岡山市 観光振興課 水岡・風早 直通086-803-1332 内線4532・4533

署名、求む! さあ、大河ドラマ実現へ。

# UKITA

## 宇喜多の大河

— 宇喜多直家・秀家 —

宇喜多家は動乱の時代に現れ、  
一閃の光芒を放った後、  
歴史の中に消えていきました。

智勇に生きた直家、  
守るものために生きた門融院、  
忠義に生きた秀家、  
愛に生きた豪姫。

その物語は岡山に始まり、  
東京都島しょ部を含む  
国内外に広がっています。  
私たちは、今ここに光を当て、  
その足跡を知ってもらえどもと、  
その魅力を全国に向けて  
発信していくべく、  
宇喜多大河ドラマプロジェクトを  
始動させました。  
また、岡山県内全市町村も  
その活動を応援しています。  
皆様からの応援、  
よろしくお願いいたします!

戦国宇喜多家を顕彰する会



豊臣五大老中、唯一、  
大河ドラマになっていない家でもある。  
歴史ファンの声援が頼りだ。

よろしく頼む! —— 磯田道史

※ 抜粋 (応援メッセージの全文は特設サイトへ) 歴史学者 (岡山市出身)

ともに進もう。  
この道の先にどんな結末が  
あろうとも。

賛同の署名は  
裏面で

# 私は見たい! だから署名します。

「戦国 宇喜多家」NHK大河ドラマの実現に向けて。

そなたの名は?



集まった署名は責任を持ってNHKに提出させていただきます。

お国はいつまで



お名前 (フルネームをお願いします)	ご住所 (都道府県+市区町村名までOKです)
	都道府県 市区町村
	都道府県 市区町村
	都道府県 市区町村
	都道府県 市区町村
	都道府県 市区町村
	都道府県 市区町村
	都道府県 市区町村
	都道府県 市区町村
	都道府県 市区町村
	都道府県 市区町村
	都道府県 市区町村
	都道府県 市区町村
	都道府県 市区町村
	都道府県 市区町村
	都道府県 市区町村
	都道府県 市区町村

※ご記入いただいた情報は署名活動以外には利用しません。



## 私たちも宇喜多の大河ドラマ化を応援しています。

### 【戦国宇喜多家を顕彰する会】

岡山市 / 岡山商工会議所 / (公社)おかも観光コンベンション協会 / 大河ドラマの誘致を目指す岡山市議会の会  
岡山市連合町内会 / 岡山市連合婦人会 / (一社)西大寺活性化協議会 / (株)山陽新聞社 / 西日本旅客鉄道(株)  
宇喜多家史談会 / おぶくの会 / 亀山城跡保存会 / 八文島久福会 / 東京都八文町 / 石川県金沢市 / 岐阜県揖斐川町  
岡山県瀬戸内市 / 鹿児島県垂水市

■ チーフアドバイザー：磯田道史 ■ アドバイザー：大西泰正 / 小和田哲男 / 垣根涼介 / 木下昌輝  
河野通和 / 千田嘉博 / 平山 優 / 内池英樹 / 谷一 尚 / 出宮徳尚 / 栗岡 実 / 森 俊弘 ■ 顧問：宇喜多秀臣

### 【戦国宇喜多家の大河ドラマ誘致を応援する自治体の会】(岡山県内市町村)

倉敷市 / 津山市 / 玉野市 / 笠岡市 / 井原市 / 総社市 / 高梁市 / 新見市 / 備前市 / 赤磐市 / 真庭市 / 美作市 / 浅口市  
和気町 / 早島町 / 里庄町 / 矢掛町 / 新庄村 / 鏡野町 / 勝央町 / 奈義町 / 西粟倉村 / 久米南町 / 美咲町 / 吉備中央町

署名の提出先

戦国宇喜多家を顕彰する会事務局 (岡山市役所 観光振興課内)

特設サイトも  
チェック



郵送・宅配

〒700-8544 岡山県岡山市北区大供一丁目1-1  
岡山市観光振興課内 (TEL:086-803-1332)



FAX : 086-803-1877



スマホ・パソコンで簡単!

WEB署名も →

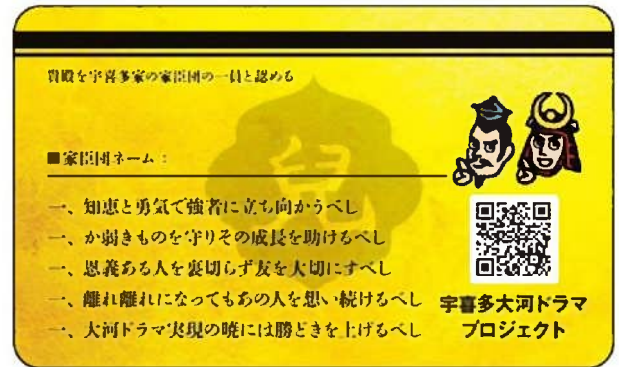
宇喜多の大河 署名 検索

WEB署名された方には  
「宇喜多家 家臣団証」プレゼント!



<宇喜多家家臣団証>

- ・「集え！岡山城」岡山城ブースおよび岡山城にて署名された方に配布
- ・名刺サイズ両面印刷



<デジタル版宇喜多家家臣団証>

- ・WEB署名された方がダウンロード可能



<ロゴマークステッカー>

- ・署名開始記念として「集え！岡山城」岡山城ブースで署名された方に配布





# 宇喜多直家

## 歴史に葬られた 英傑

1529年に砥石城(岡山県瀬戸内市)に生まれたとされる。6歳の時に居城を島村氏に攻められ、以後、住ま

いを転々とする人生を送ったという。その後、浦上宗景に出仕し、二子城主に抜擢。のち、弟の中山勝政を謀殺(浦上宗景の指示といわれる)。同族に仇敵・島村氏を討ち、祖父の領地を奪回。以後

魚山城を居城に勢力拡張に努めた。

1568年頃、備前に進出してきた三村氏を撃退。さらに岡山の城を手に入れ、大改修を施して入城。

ここに城下町・岡山の歴史が始まった。

その後、浦上宗景を追放して備前を統一し、美作南部、播磨西部も領有。中国地方に進攻してきた織田方と対峙するが、羽柴秀吉を通じて帰属。毛利勢と激しい攻防を繰り返し、1582年(または1584年)に精没した。

### 虚像からの解放へ

直家は、善藤道三、松永久秀と並ぶ戦国三大車軍の一人といわれてきた。そのイメージは、江戸時代になって、当時の儒学者的観点から敗者である直家を悪役のように語り伝えたことで培われてきたとされる。ゼロから独力で50万石大名となり、岡山の礎を築き、備田・毛利の超大国と連り合った直家こそ真の姿。英雄であるのは間違いない。

### 実は部下思いで先見的！

自ら荒地を耕し、食糧不足の折にはともに絶食するなど部下思いの面もあった。また、山城が主流の時代に平地の岡山に城を築き、山陽道を付け替えて商人を呼び寄せ、城下町の礎を築くなど、時代の先を見据える目があったと言える。

## 独力で50万石大名となった智勇兼備の将、直家。関ヶ原で唯一徳川方と

# 円融院

## 幼き子と家を守った強き母

戦で滅んだ三浦氏の妻とされ、のちに宇喜多直家の妻となった。俗説には「おふく」とされる。

幼して跡を継いだ息子・秀家と宇喜多家臣同をまとめるとともに、羽柴秀吉の力を背景に周辺武将に睨みをかけさせるなど、女城主に近い時期があったとも言われる。それを物語る資料もある。宇喜多・羽柴方と毛利方の同盟を定める交渉で、毛利方の安国寺恵理は、「(秀吉方交渉役の)黒田官兵衛、新須賀正勝が例え了承しても、秀家の母が秀吉に手紙を書いて直訴したら、決定が覆ってしまう」という書状を同氏に送っている。



直家の妻



# 兒

# 宇喜多秀家

## 忠義に生き 波乱の人生を歩んだ 五大老

1572年に誕生し、直家死去により幼くして家督を相続した。四国攻め、九州攻め、小田原攻めなどに活躍し、秀吉の天下隆興を支えた。また、海外出兵時には戦地から指示を出し、岡山の下町づくりにも動んだ。

1597年頃には岡山城主守が完成。後世、五大老とされる豊臣政権の中心を担う大名となった。

1600年の関ヶ原の戦いでは、嫡子見を決め込んだり、東軍につく武将も出る中で、豊臣方として忠義を貫き、西軍の最大兵力で出陣。大將格として奮戦するも敗退し、島津氏を頼って現在の鹿児島県垂水市に隠れるも、八丈島へ配流となった。

以後、本上に戻ることなく、関ヶ原を戦った大名としては最も長く生きて1655年に死去した。

一人足張

### 八丈島に佇む 秀家と豪姫の像

八丈島の秀家と、豪姫の再会はついにかなわなかった。それを悲しんだ後世の人々によって、現在、八丈島には二人が仲睦まじく並ぶ彫像が設置されている。

### 実は武骨で、秀吉からの信頼大

秀家は、秀吉の天下平定の期には常に従軍し、大陸出兵では総大将として活躍した。また、要となった豪姫は秀吉最愛の娘とも書われ、その夫として秀吉を選んだ秀吉の人物眼からも、秀家の人となりが見えき。秀吉は、徳川家康らの次の世代として、秀家に豊臣秀頼後見の役割を期待していたのではないだろうかという考えもある。



三浦千景

# 豪姫

秀家の妻

## 明治維新まで続いた夫と子孫への思い

前田利家と芳春院(おまつ)の娘。羽柴秀吉の養女であり、宇喜多秀家の妻。豪姫が床に臥せ、孤が取り悪いとせいでと言われた際に、秀吉は、蒲荷の穂本草・伏見蒲荷太社に対し「取り悪い孤を退散させよ。さもなければ関中で孤のりをし孤族を滅ぼすぞ」と激怒したとされ、秀吉の溺愛ぶりが伺える。八丈島へ配流となった秀家に米や生活物資を送り、自身は再婚することなく、途に夫と子らの身を案じ続けたとされている。その思いは死後も継承され、前田家からの仕送りは秀家の子々孫々へ及び、明治維新まで続いた。

